PICK UP！在宅医療機関　057

すんぷ在宅クリニック

大石龍之介

院長



054-298-7731

sunzai.jp

静岡県静岡市葵区大岩町1-25 2F

当院は「家でも安心できる医療」をビジョンに掲げた、静岡市の在宅診療クリニックです。家での「不安」を取り除くべく、苦痛の緩和はもちろん、なるべく話しやすい雰囲気作りを心がけています。

2026年5月、静岡市葵区に開業した「すんぷ在宅クリニック」。院長の大石龍之介医師は、麻酔科で培った全身管理の経験を生かし、患者さん一人ひとりの希望に合わせた訪問診療に取り組んでいます。大切にしているのは、主治医として継続して関わること、医療者側の都合で医療を押し付けないこと、そして誰もが相談しやすい関係をつくることです。一方、診療を支える仕組みにも目を向け、開業時から訪問診療の請求業務を支援する「CareHub」を導入。診療と経営の両面から、地域で医療を続けていくための体制づくりを進めています。麻酔科医から在宅医療へと進んだ理由、目指すクリニックの姿、医療DXへの考え方について、大石院長に伺いました (2026年11月取材)。

静岡市で取り組む訪問診療・緩和ケア｜患者さんの希望を大切にする医療

ご自身のクリニックを開業しようと思ったのはなぜですか。



以前から、絶対に開業しようと決めていたわけではありません。ただ、いろいろなクリニックで働くうちに、「自分だったらこうしたい」という考えが少しずつ出てきたんです。
それぞれのクリニックには方針があり、良いと思うところもあれば、自分の考えとは少し違うところもあります。良い部分は取り入れながら、自分が大切にしたい診療の形を実現したい。それが開業につながりました。

その「大切にしたい診療の形」とは、どのようなものですか。



一つは、主治医として継続して関わることです。患者さんの立場で考えると、毎回違う先生が来るよりも、同じ先生が来てくれた方が、信頼関係を築きやすいと思うんです。
もう一つは、医療を押し付けないことです。患者さんが、なぜ訪問診療を頼みたいのか、訪問診療を利用してどうしたいのか。その希望を大切にしたいと考えています。
もちろん、治療をしないことで大きな不利益が生じる場合には、きちんとお伝えします。ただ、医療者側の都合で訪問の回数や診療の形を決めるのではなく、患者さんの希望を聞きながら、こちらが柔軟に合わせていきたいんです。
例えば、医療者としては訪問を増やしたいと思っても、ご本人は今の頻度を希望されることがあります。そうしたときも、一方的に進めず、その方が何を求めているのかを考えるようにしています。

麻酔科の専門性は、患者さんへの対応にどのように生きていますか。

特に、がんの終末期や呼吸器疾患の終末期など、医療用麻薬を使う場面では、これまでの経験が生きていると思います。普段から扱ってきた薬なので、苦痛を和らげるために、できるだけ速やかに対応した

いと考えています。
ただ、痛みを抑えることだけで、その方にとっての良い医療が決まるわけではありません。
例えば、薬を持続的に投与するポンプについて、医療者としてはそろそろ使いたいと考えていても、ご本人には「お風呂に入りたい」「まだ機器をつけたくない」という希望があることもあります。
そうしたときには、ご本人の希望を踏まえ、できるだけ別の方法で対応できないかを考えます。医学的にどうするかという判断と、その人がどんな生活をしたいかという希望の両方を大切にしたいですね。



開業後の反響はいかがですか。
想定していた以上に、多くの患者さんの診療をお任せいただいていて、ありがたく思っています。事務長の齊藤さんの力も大きいですし、一度関わった訪問看護ステーション、ご家族、患者さんご自身から紹介をいただくこともあります。
患者さんがご友人を紹介してくださることもあって、本当にいろいろな方向からご縁をいただいています。自分で狙っていた通りというより、「そういうつながり方もあるんだ」と感じていますね。

スタッフと働く上では、何を大切にされていますか。
必要な場面では、院長として指示を出さなければなりません。ただ、普段のコミュニケーションは、できるだけフラットでありたいと思っています。最初から院長室をつくるつもりはありませんでしたし、時間があればみんなでご飯を食べに行ったり、お菓子を買って帰ったりもします。良い意味で仲が良く、お互いに意見を言える関係が理想です。スタッフから言われたことが正しければ、もちろん受け入れます。何も言われなくなって、自分が「裸の王様」になってしまったら、開業医としては終わりだと思っていますから。



訪問診療を支える業務DX｜CareHubで請求業務を効率化

すんぷ在宅クリニックでは、CareHubの開発・販売元である株式会社Inter deV.の齊藤代表が事務長を務めています。こうした関わりの中、同院は開業時からCareHubを導入し、請求業務の効率化に取り組んできました。

開業時から導入した理由を教えてください。
当院は最初からCareHubを使っていて、請求書を郵送する形を取らずに運営しています。やるのであれば、後から仕組みを変えるよりも、最初から取り入れた方が進めやすいと思ったんです。導入したから直接患者さんが増える、というものではありません。ただ、診療報酬は国が定める価格を基本としています。その中で、クリニックとして取り組める経営努力…



CareHub画面（利用者さん向け）

続きはQRコードからアクセスしてください　→ → →

おうち de 医療
在宅医療com株式会社
〒107-0062　東京都港区南青山3-1-36青山丸竹ビル6F
service@zaita9iryou.com